近年の、外国での記憶から：承前（一昨年の続きを）

11期　長岡 正利

『やまざと』一昨年号に続いて、近年の外国での写真を紹介させて頂きます。なお、遅れての送稿で、編集の仲村様と皆様、ご担当の谷内様(デザイン･プリーズ社)には大変お世話になりました。

その８:インドのガルワールヒマラヤ･花の谷と、スィク教聖地のヘムクンド湖へ － 2015 年 7 月に

ヒマラヤの「花の谷」は、ヒマラヤ登山の黎明期･1931 年に、英国人 F.Smythe が到達して名付けた地。ヒマラヤ山中に分け入ることが困難であった時代には花の宝庫と言われたものの、今日の目で見れば、ヒマラヤの何処にでもある、氷河が削った広い谷。花々も、普通のヒマラヤ山中です。

山中にはスィク教の聖地「ヘムクンド湖」があって、大勢の巡礼者が。観光の人は目立ちません。小生は、インド南部からのドラヴィダ系の人たちと。標高に応じた服装に見るとおり上部は寒冷な。

氷河湖脇のスィク教寺内と、その行者さんと一緒に。下界での、三叉戟を携えたヒンドゥ遊行僧。
山中･シリケシのガンジス河岸辺で、亡き人を偲びつつの、流し灯で祈る人たち。

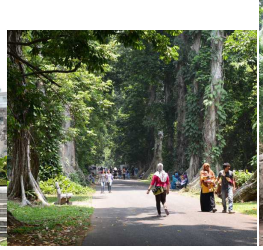
山麓･ハリドワールの、ヒンドゥ教の沐浴地(ガート)は、常に、驚くような賑わい。氷河からとうとうと流れ下る大河･ガンジスの水は、炎天下にあっても歯の根が合わなくなる位の冷たさですが、この水が全ての罪障を洗い流し、現世の苦しみからの解脱が叶うとの、信仰への熱意で。
右下の２枚は平野部で出逢った麗しの人たち。　皆様も、どうぞ、素晴らしいインドへ是非！

その9：インドネシア・ジャワ島とスメル山登山－山火事からの帰還　－ 2015 年 10 月に

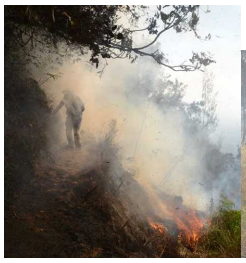
日本山岳会（JAC）創立 110 年記念事業「インドネシア・プロジェクト」の一環として、参加者が自ら組織し企画した登山隊（JAC 副会長が隊長）として、ジャワ島の最高峰スメル山などへ。

ジャカルタは、思っていたよりも遙かに現代的な大都会でした。下は、Central Park Hotel と隣接の SOGO 店内。更に隣接の Mall での MAZDA 新車発表会と、その説明嬢。

東洋最大規模を誇るボゴール植物園を訪問。その歴史は蘭印総督府の庭園に発する。日本の統治時代は中井猛之進が園長を務めたが、軍が植物園の樹木を徴発・伐採しようとした際に身を挺して阻止した史実が、誇りを以て語られる。その正門と森閑の園内。休日には、若い人たちで賑わう。



スメル山（3679m：メルー山とも）は、ヒンドゥー世界で言う世界の中心に聳える須彌山。10 数分に１回は小噴火で、急峻な砂礫斜面はずり落ちつつ登る困難さ。乾期後半の現地では各地で自然発火の野火で、下山は猛火迫る中を何とか。目は見えず、呼吸出来ない恐ろしさを思い知りました。



下山後には、友人の知人がマラン近郊でガムラン舞踊の学校をやっておられるので、そちらを訪問。最後の２枚はジャカルタでの、モデルさんの業務用撮影に混ぜて貰っての。まじまじと見つめられて、小生、レンズを通していても、思わずのたじたじでした。　では、この続きはまた来年に。

（なお、KUWV-OB会のHP中、「会報Web版」からご覧頂けますと、カラーでの閲覧が可能です。）

その10:昨年は、小特集「白山開山 1300 年に寄せて」の中で、「かつての白山信仰と山中での昔のくらし」の拙稿を載せて頂きました。今年は、その 1300 年祭礼についての、次の講演予稿を。

セッション Ⅰ

日本山岳文化学会 大会 2018. 11. 17-18 一般講演
（東京慈恵会医科大学高木会館２号館にて）

各地での白山開山 1300 年祭礼（昨年）と関連の催し

長岡正利

演者は本学会 2016 年大会で、一向一揆（天正 2（1574）年）や明治の廃仏毀釈を経ても現代に遺った白山信仰の諸仏（うち重文が２点）などを紹介した。白山は、伝承に拠れば、養老元（717）年に越前の修験僧・泰澄が登頂・開山したとされ、昨年がその 1300 年目にあたることから、関係の各地では開山 1300 年祭が華やかに催された。

その創祀史実については下記文献に委ねるとして、ここでは、白山の三馬場（越前の白山平泉寺、加賀の白山比咩神社、美濃の長瀧白山神社）などでの白山開山 1300 年祭を紹介するとともに、神仏習合の面影を伝える富山県南砺市の五箇山上梨白山宮の祭礼を写真紹介する。その御本尊は十一面観音（神社ではあるが）で、33 年毎の御開帳が来春にあたる。

平泉寺白山神社の拝殿両翼に拡がる
一向一揆で焼亡の三十三間拝殿礎石列

開山1300年祭で開扉の拝殿内部
中央の繪馬は室町期とされている

寄進年が読み取れる繪馬の一つ、
寛永15（1638）6月18日 越前藩主松平家の

開山1300年祭で開扉の本社奥殿と、

奥にのぞく白山女神像御前立ちお顔

越前藩主が寛政7（1795）年再建の本社
奥殿の「白山妙理大権現」額と昇り龍

夜の訪れと共に始まる五箇山白山宮の秋祭り

当日昼の奉納踊り

本尊が33年毎に御開帳（次は来年5月11・12日）との標札と、重文説明にもその旨が

【文献】若林喜三郎編『白峰村史、上・下巻』. 白峰村役場（1962・1959）
北國新聞白山総合学術調査団編『白山』. 北國新聞社（1962）
白山本宮神社史編纂委員会編『白山比咩神社史－古代・中世編』. 北國新聞社（2016）
平泉隆房「越前馬場の信仰」.『悠久』No.148 特集「白山信仰」鶴岡八幡宮（2017）
平泉隆房「泰澄大師の出自と『泰澄和尚傳記』」.『藝林』Vol.66-1（2017）
勝山市編『白山平泉寺－よみがえる宗教都市』. 吉川弘文館（2017）

上述の五箇山上梨は、高校生時代からのご縁の地です。皆様、どうぞ、来春の御開帳にお越しを。